

『活動の基本、“ピアザ”って何?』—世界に通じる力を育てる—第2号

今回のテーマは、『ピアザ』です。聞き慣れない言葉かもしれませんが、私たちの主な活動の場です。ピアザとは「広場」を意味するイタリア語で、地域で活動するセルラスのグループの呼び名です。セルラスの団体名称「多言語広場 CELULAS」の『広場』は『ピアザ』と読んでいただいています。会員が毎週、地域で集まるピアザは、地域にある楽しい語らいの広場のイメージです。今回はこの「ピアザ」についてお話をさせていただきます。

それでは、—世界に通じるチカラを育てる—『多言語広場セルラスメルマガ』第2号の目次です。

【 目次 】

〈1〉人もことばも育てあう場 『ピアザ』とは？

～母語習得に限りなく近い場づくり。だから語学教室にあるはずのあれが、ない?!～

〈2〉ピアザの風景 『ピアザで感じた、人とのつながり』

〈1〉人もことばも育てあう場 『ピアザ』とは？

☆☆ピアザは子どもが母語習得する環境に近い、安心してことばを伝え、受け止め合う場です。だからこそ、巷の語学教室に当たり前にあるものが「ない！」のです。

私たちはピアザで、人材育成、そして多言語習得活動(現在は英語・スペイン語・韓国語・中国語・そしてロシア語が始まりました!)を行っています。ここは、いわゆる語学教室とは全く違います。何が違うのでしょうか？最大の違いは、私たちはことばを教えたり習ったりしません！

ことばは勉強して覚えるものではなく、人と一緒に育てあうものだからです。

◆ピアザには～

1.“先生”がない

ピアザには先生がいません。多言語を教える、教えられる、という関係の場ではなく、セルラスオリジナルストーリーCD&ストーリーブックを素材に、みんなで一緒にことばを培い育てあう場なのです。

2.“クラス分け”がない

語学力や年齢によるクラス分けはありません。赤ちゃんから大人、シニア世代まで、人種や国籍、ことばや社会経験の差も関係なく一緒に活動します。

3.“評価”がない

ピアザの中では「正解と不正解」はありません。できる、できないという比較もありません。評価ではなく、ひとりひとりがお互いの存在とことばを認め合う場だからです。ことばの出来高を評価するよりも、伝えようとするおもしろさを受け止めあうことが、多言語習得のプロセスで大切なのです。

4.“壁”がない

1 か国語だけではなく、複数の言語に同時に触れることは、どんなことばにも向き合え、どんな国の人や文化にも興味を持ち、世界の壁を無くすことに繋がります。

人にもことばにも壁がありません。

☆☆いかがですか？人間の母語習得の過程に学んだセルラスの多言語習得環境が『ピアザ』なのです。

だから、母語習得の過程にないものはピアザにもありません。

でも・・・、それでことばが育つの？と疑問に思った皆さんのために、今回はこれがあるからことばが育つ！『ピアザ』にあるものをご紹介しますと思います。お楽しみに～☆

それでは次に、この『ピアザ』に参加しているメンバーの体験談をご紹介しますと思います。

《2》『ピアザで感じた、人とのつながり』

大阪在住 東さん(家族構成:夫、大学1年娘、中3息子)

私はこの活動を始めて10年になりますが、ピアザというのは、自分の地域にあるピアザだけでなく、どこかのピアザにも行くことができるので、その名の由来の通り、小さな子どもから大人までいろいろな人が集い、毎回新しい発見や出会いがあるのも魅力の一つだと思っています。

私の所属するピアザにも、これまで沢山の他のピアザのメンバーや留学生が訪れてくれました。

他のピアザ訪問に発見が！

とは言え、自分は仕事もしてなかなか自らが他のピアザに行けないのが現実なのですが、最近、同じピアザの子どもたちが他のピアザに無関心なのがちょっと気になっていました。

他のピアザに「行こうよ！」と声かけする前に自分が頑張っ行って行かなきゃと思い、時間をやりくりして他のピアザに積極的に出てみました。すると、そこには沢山の発見があったのです！

普段なかなか話せない年代のお母さんと話をしたり、同じ受験生を持つ母親同士の話がじっくりできたり、いつものメンバーではないのに、セルラスメンバー同士ということもあって、初対面とは思えないほど気楽に、そして楽しく話が出来たことがとても新鮮でした。

驚くほど日本語が話せる留学生

また、来訪者の私に小さな子どもたちが近くに寄って来てくれて、私の目を見ながら膝に手をおき、どんどん私に話しかけてくれました。

「名前なんていうの？」「なんで梅田から芦屋まで来たん？」「いいな～、このシールどこでもらったん？」（他のピアザに行くと、お出かけの印にシールをもらう仕組みがあります。）等々、子ども達が素直に自分の思いを表現してくれる姿に、私はふと気付きました。

ピアザに来てくれる留学生たちは、出会った頃は片言の日本語しか話せなかったのに、ちよくちよくピアザに来ているうちに、気付くと数カ月で驚くほど日本語が話せるようになっていたことを思い出し、その姿と子どもたちの姿が重なって見えたのです。

ことば(多言語)を育てる人との距離

子どもたちは人との距離がとても近いのです。そして驚くほど日本語が話せるようになった留学生達も、子どもたちにどんどん近づき、積極的に話しかけていました。「今日学校どうだった？」「クラブどうだった？」「写真みせて」と。

この、人との距離、人との関係性がことば(多言語)の習得にはとても大切なんじゃないかと思ったのです。人は大人になると、人との距離を測り、相手を気遣いながら(時に遠慮しながら)話をするようになりますが、子どもにはそんな気遣いはありません。

相手に対する思いをストレートに伝えてきます。人への距離が近い、人に興味をもつ、人に優しい、これは人が言葉を話すために絶対に必要なことだと思います。

家族にとって大切な環境

一般的な社会ではむやみに人に近づけない現実がありますが、セルラスのピアザには、年代を越え、国を越えた関わりがあり、その中で自然に人に興味を持ち、距離を縮め、そこで生まれた自分の気持ちを素直に出すと、すべてを受け止めてくれる仲間がいます。

みんな違うのが当然、間違ったって大丈夫、そんな環境は他の習い事を探してもないと思います。

大学1年になる娘は、忙しくても「ここにくると何かいいことがあるから」と言って出来るだけピアザに来るようにしています。

その気持ちはいつまでも持ち続けて欲しいと思うし、私も家族やたくさんの仲間と共有できるこの環境を本当に大切に感じています。

このメールマガジンは、これまでセルラスが開催した『多文化教育セミナー』に参加されるなど、私どもの活動にご興味を寄せていただいた皆さんにお送りしています。

セルラスの多言語習得や異文化体験、楽しい交流の活動を、より多くの皆さんに知っていただくために発行しています。

日頃の私たちの活動やご家族で参加いただけるイベントやセミナーなどのお知らせをお届けします。